

館林市のごみ回収事業と 公共工事について問う

橋本 徹 議員

3施設の役割について問う

建設中でございます。

【質問】 平成29年4月から1

分別収集について問う

市2町によるごみの共同処理が始まるが、館林市、板倉町、明和町、それぞれの役割について伺います。

【質問】 昨年、プラスチックの資源化について質問した際に、年間4000万円を支出してしていると答弁されたが、これでは資源化をしないほうがいいと思いますが、その考えについて伺います。

【答】 館林市にごみ焼却のための熱回収施設、板倉町にリサイクルセンター、明和町に最終処分場をそれぞれ

【答】 プラスチックは焼却

することによって高い熱量を出す

ことから焼却炉を傷めたり、温室効果ガスも発生します。

昨年度のプラスチックの資源化量は1240トンで、

CO₂に換算して約3400トンの削減効果がありました。

今後、市民の皆様にはプラスチックの分別のご協力をお願いしたいと考えております。

ごみの減量化について問う

【質問】 ごみ袋の有料化など、ごみの減量化に向けた取り組みについて伺います。

【答】 ごみ袋の有料化につ

きましては、全国の自治体で約62%、県内でも35市町村中17市町村で導入して

おり、多くの自治体で効果を上げておりますが、検討事

項も多く、今後、ごみ処理のパートナーであります板倉町、明和町と調整・検討してまいります。

最低制限価格について問う

【質問】 130万円以上の工事では、県基準に準ずる考えがあるのか伺います。

【答】 群馬県の最低制限価格は、本市よりも3%から4%程度高い設定となっていると認識しております。県では最低制限価格の算出方法について、公契連モデルが本年3月18日付で改定されたことに基づき、6月1日より改正したため、従来比で約2%上昇することとが予想されますことから、本市でも予定価格の10分の9を上限として、最新の公契連モデルに準拠した改正を今後速やかに検討してまいりたいと考えております。

つつじまつりの成果と課題及び 館林城の復元について

櫻井 正廣 議員

【質問】 今年度のつつじまつりの反省点と課題について伺います。

【質問】 今後の誘客に対する考え方について伺います。

【答】 総入園者数は、昨年度に比べ約5%増となっておりますが、年々減少傾向

【答】 「四季型化」を一層進め、有識者の皆様のお力をお借りしながら、今後も情報発信を強化し、誘客につなげてまいります。

観光施設との連携強化を図

【質問】 本市は城下町であり

ますが、現存する歴史的建造物は少なく、これからの子どもたちにとって「昔、ここにありました」という

「碑」だけでは、城下町としての記憶が残らない状況となっております。記憶喪失のまちにさせないために「館林城」の復元についての考えを伺います。

【答】 歴史と文化のまち館林を未来へ継承していくためにも、子どもたちが自分の住む町を愛し、誇りを持てるまちづくりを目指して

いく必要があると思います。

館林城の復元も財政的な裏づけなどがあれば、特色を生かしたまちづくりの一つの手段になると考えます。

【質問】 企業や各種団体の協力を得ながら、復元のための「市債」を発行し、行政と市民の協働による歴史と文化のまちづくりにつなげる考えについて伺います。

【答】 財源確保や市民のまちづくり参加意識の高揚を図る観点からも有効な手段であると思いますが、慎重

に対応すべきものと考えます。

【質問】 本市のスローガンでもある「水と緑と人が輝く共創都市たてばやし」を未来の子どもたちにつなぐためにも、復元への市長の前進きな考え方を伺います。

【答】 財政状況を熟慮したとき、現時点での復元には慎重にならざるを得ませんが、今後の復元に向けた気運の盛り上がり期待しながら、市民との共創を基本にしっかりと検討してまいりたいと考えております。